

6-2 どのような薬が一番利用されていますか？

その薬はどのような作用がありますか？

薬は診療科（内科とか外科とか婦人科、神経科、眼科、耳鼻科など）によって使用される薬が大きく異なってきますので、あくまで一例として理解してくださいね。

私の所属している三田調剤薬局では、ロキソプロフェンナトリウム（ロキソニン）という薬が多く使われています。

この薬は、解熱・消炎・鎮痛剤といって、熱を下げたり、炎症を抑えたり、痛みを抑える作用があるので、いろいろな診療科で処方されます。内科では熱を下げる目的や、頭が痛いときなどに痛みを和らげる目的で使われますし、耳鼻科では喉や鼻、耳の炎症を抑えるため、整形外科では肩でも首でも腰でも痛めたところの痛みや炎症を抑えるため、歯科でも痛みどめとして使われるので、いろいろな診療科で使用される薬ですね。

ただ、この薬は一般的には大人向けの薬なので、皆さんのような小学生さんにはアセトアミノフェン（カロナール）という薬が多く使われています。この薬は解熱・鎮痛薬で、炎症を抑える効果はないのですが、コロナのワクチンの副作用で発熱するような場合にはとても効果的で安全性も高いので、この薬が推奨（すすめられて）されています。

三田調剤薬局の近くには、内科、耳鼻科、皮膚科があるので、抗アレルギー薬という薬もとてもたくさん使われています。抗アレルギー薬はたくさん種類があるので、全部合わせたら、ロキソニンより多くでていると思います。

抗アレルギー薬は、アレルギー症状を抑える薬ですが、皮膚科ではかゆみを抑える作用があるので、湿疹や蕁麻疹、虫刺されや、アトピー性皮膚炎などにも使われます。耳鼻科では鼻水を抑える作用があるので、鼻風邪にも使われますし、花粉症で鼻水やくしゃみ、鼻や耳や目やのどがかゆいような症状にも使われています。アレルギー性の咳や喘息などに使われることもあります。

このように、抗アレルギー薬は、まったく別の症状に同じ薬が使われることがあるので、ときどき、皮膚科で薬をもらっている患者さんが、鼻の症状で耳鼻科にもかかり、同じような薬が重複して処方されてしまうことがあります。そういうときに、薬の重複を防いでくれる助けとなるのが、お薬手帳です。

皆さんもお医者さんにかかるときはお薬手帳を持参して、先生に見せてくださいね。薬局でもだしてくれるとダブルチェックができるので、とてもうれしいです。